

これは何でしょう？ (答えは下に)





(画像提供 玉川大学教育博物館)

(答え)明治時代初めの小学1年生が 勉強に使った掛図



掛図を使って授業をしている先生

『小学入門』 1875 (明治 8) 年

明治5年、「学制」が出され、初めて学校のしくみが作られました。

最初は教科書もなく、小学校8級 (1年生の初め) の子どもたちは、カタカナ (五十音)、ひらがな (いろは順) を習った後、この掛図で勉強しました。

2つの掛図は、同じ音でも書き方が違うものを示したものです。

今のかな遣いは、「～は」「～へ」「～を」以外、1つの音に1つの文字です
ね。

ところが、戦前までは、同じ音でもいろいろな書き方があったのです。

たとえば、上の図では、赤い字で「イ」「𠬞」と書いてありますね。

声に出すときはどちらも「い」と読みますが、書くときはちがいます。

「イ」に書いてある方は「いと」「いぬ」「いかり」ですが、「𠬞」に書いてある方は、「ゐ (井戸のこと)」「ゐのこ (ブタのこと)」「ゐもり」と書いたのです。

(これを、「歴史的かな遣い」といいます。たとえば、歴史的かな遣いでは、「福井県」は「ふくゐけん」と書きました)。

ちなみに、「じょう」という音には、使う漢字によって、

「じょう」「じゃう」「ぜう」「ぢやう」「でう」「でふ」と、6種類も書き方があったんですよ。たとえば、

二条城の六畳間でお嬢さんが冗談を言った。

(にじょうじょうの ろくじょうまで おじょうさんが じょうだんをいった)

は、歴史的かな遣いでは、

(にでうじゃうの ろくでふまで おぢやうさんが じょうだんをいった)

と書かなければいけませんでした。

そして、掛図を見ると、ずいぶん難しい漢字が書いてありますね。

当時の1年生にこれが読めたのでしょうか？

そんなはずはありませんね。絵で理解したに違いありません。

みなさんは、掛図の文字が分かりますか？

また、今はあまり目にしないものもありますね。

知らない言葉は、辞書やインターネットで調べてみましょう。

(読み方は次のページ)

— 第											
図 語 単											
省 部 文											
ㇰ			ヒ			イ			ㇰ		
とり	とり	鳥居	かい	かひ	貝	かい		櫂	い	ゐ	井
い	ゐ		かい	ひ		かい			い	ゐ	井
い	ゐ	蘭	たらい	たらひ	盥	とうだい		灯台	いのこ(ぶた)	ゐのこ	豚
い	ゐ	紫陽花	ふるい	ふるひ	篩	こうがい		筭	いもり	ゐもり	蝶蛭
あじさい	あじさゐ		ふるい	ふるひ					いもり	ゐもり	
ㇱ			へ			エ			ㇱ		
ともえ	ともゑ	鞆絵	かなえ	かなへ	鼎	さざえ		栄螺	えま	ゑま	絵馬
ともえ	ともゑ		かなえ	かなへ		さざえ			えま	ゑま	
つえ	つゑ	杖	いえ	いへ	家	ふえ		笛	えのぐ	ゑのぐ	絵具
つえ	つゑ		いえ	いへ		ふえ			えのぐ	ゑのぐ	
つくえ	つくゑ	机	なえ	なへ	苗	ひえ		稗	えんじゅ	ゑんじゅ	槐
つくえ	つくゑ		なえ	なへ		ひえ			えんじゅ	ゑんじゅ	

ふりがなは左側が現代仮名遣い、中央が歴史的仮名遣いです。
読み方は、『小学教授便覧』(松川半山注解・画、1876(明治9年))によりました。

明治七年
八月改正

二 第												明治七年 八月改正							
図 語 単																			
省 部 文																			
ホ			ヲ			ヲ			オ			ハ			ワ				
か	か	顔	さ	さ	竿	お	を	斧	お		帯	か	か	瓦	く		慈姑		
お	ほ		さ	を		の	の		び			わ	は		い				
ほ	ほ	酸漿	う	う	魚	お	を	鴛鴦	お		狼	か	か	櫛	く		轡		
お	づ		お	を		し	し		か			し	し		つ				
あ	あ	牽牛花	ば	ば	芭蕉	り	り	折本	お		織物	く	く	鍬	わ		鯛		
さ	さ		し	せ		ほ	ほ		り	もの		わ	は		い				
が	が		ょう	を		ん	ん								わ				
お	ほ														し				
ヅ			ズ			ヂ			ジ										
う	う	鶉			す			雀	も	も	紅葉				き		雉子		
ず	づ				め				み	み					じ				
ら	ら				ね			鼠	あ	あ	鯰				に		虹		
な	な	鯰			ず				じ	ぢ					じ				
ま	ま				み						藤の花								
ず	づ							鈴	ふ	ふ					ふ		富士の山		
み	み	水呑			す				じ	ぢ					の				
の	づ				ず				は	は					や				
み	み								な	な					ま				
ふりがなは左側が現代仮名遣い、右側が歴史的仮名遣いです。																			
読み方は、『小学教授便覧』(松川半山注解・画、1876(明治9年))によりました。																			